

ぶろしよつぷつうしん

ボウリングボールはボム？

ボールの構造を皆様はご存じですか？現在作られているボールの多くは三層構造でできており、三ピースボールと表現されます。

この構造は内側から

○コア（中球・ウエイトブロックともいう）

○インナーシェル

○シェル（カバーストックともいう）

となっております。中には二層構造のものもあり、二ピースボールと言われ、コアとシェルのみでできています。

コアにはいろいろな形があり、メーカーの開発の中で緻密に計算され、曲がりや走りなどボールの動きを左右します。このコアをインナーシェルで囲い小さな球を作ります。その上からシェルで囲いボールが完成します。このシェルの素材はウレタンやリアクティブなどがありますが、今はこれに可塑性を添加し、オイルに強いもの弱いものなど様々なものができあがっています。



ね?!(笑)

コアやシェルなどの詳しいお話はまたの機会にしようと思いますが、そもそも本当にこうなっているの？って思ったことありますか？そんな疑問深いあなたのために・・・実際にボール割ってみました！

ちゃんとカタログに記載されたコアが入っていますよ

これは佐取ドリラーが十一年前にオーストラリアに遠征に行ったときのエピソードです。入国審査の際にボウリングバッグをX線検査にかけたとき、ボールの画像を見ることができました。そうしたら、円の中にコアだけがクッキリと映っていました。「ちゃんとコアが入っているんだ」って初めて思いました。でもそれもつかの間のできごと、急に検査官が「ボム（爆弾）か?!」と騒ぎだし一瞬周りが凍りつきました。しかし、「ボウリングボール」と言ったらすぐに理解してもらえたので一安心でした。そもそもボム持っていたら日本から出国できないですよ。

新商品情報

一つ目は「マスターマインドスカラー」です。マスターマインドシリーズの最新作となり、今回はポリッシュ仕上げですが、レーン奥までスキッドし、バックエンドで一気にエネルギーを放出する、非常にアグレッシブなボールになっています。

二つ目は「ドミネーションドライブ」です。大人気のドミネーションシリーズ久々の新作です。今回は表面を曇らしオイルに強い仕上げとなっているのに、ドミネーション特有のバックエンドのキレは健在です！

ぜひともお早めのご予約を！



今回はオイル抜きについてです。毎回タオルで拭いたり、クリーナーできれいにしても表面上に残ってしまったり、内部（カバーストック）に吸収されたものはなかなか除去できません。こうしたオイルを抜くことで、ニューボールに近い状態に戻すわけですが、以前はヒーターを用いていました。しかしヒーターだと温度が高いため、カバーストックに添加されている可塑性が一緒に流出し、そもそもボールの状態を変化させてしまうというデメリットがありました。

そこで最近では専用の薬品を使用してオイル抜きをします。ご自宅でも簡易的にできるよう、市販で「リムーバー」というものが販売されています。やり方はリムーバーを全体に吹きかけて、四十度程度のお湯に二十分程度漬けます。その後お湯から引きあげて、クリーナーを

かけ拭きあげたら出来上がり。ただし、注意事項もあります。ボールは急激な温度変化に弱いので、冬場など冷たいボールをいきなりお湯につけたり、お湯から出したあといきなり冷たいクリーナーをかけたりますと割れたりすることがあります。それと高い温度のお湯に漬けないことも大事です。それとあまり何度もやることもよくありません。

プロショップでもオイル抜きの対応をしていますが、ボールの状態を見ながら様々なやり方をしています。ぜひ一度お試しください。